

La Navarraise



I Pagliacci



目次 • Contents

- | | | | |
|---|---|----|---------------------------|
| 3 | 藤原歌劇団・日本オペラ協会だより | 8 | 公演レビュー |
| 4 | 「ラ・チェネントラ」インタビュー 向野由美子&小堀勇介 但馬由香&山本康寛 | 9 | 公演ラインアップ(2018-19)／新入団会員紹介 |
| 6 | 「ドン・ジョヴァンニ」インタビュー ジュゼッペ・サッバティーニ／カルロ・カン | 10 | 外部出演マネージメント オペラ&コンサート情報 |
| 7 | 公演情報「ラ・トラヴィアータ」「静と義経」 | 12 | JOF・育成部 お知らせ |



ヴェルディ生誕200年記念

ヴェルディ生誕200年を記念し、代表作「椿姫」「仮面舞踏会」「マクベス」等から名曲を厳選。藤原歌劇団のプリモ・テノール 村上敏明をはじめ、豪華アーティスト勢で繰り出す珠玉のオペラ名曲集。

藤原歌劇団

ヴェルディ生誕200周年記念
Bravi! VOL.1

¥1,905 +税 [TKCA-73969]



超絶！ ロッシーニオペラの魅力

「セビリヤの理髪師」「ラ・チェネントラ」「オリイ伯爵」等から全11曲を集めたロッシーニ特集。高度なテクニックで様々な役を熟し、日本オペラ界のプリマドンナとして活躍する佐藤美枝子、高橋薫子をはじめ、藤原歌劇団屈指のメンバーでお届けするアルバムです。

藤原歌劇団

超絶！ ロッシーニオペラの魅力
Bravi! VOL.2

¥1,905 +税 [TKCA-74027]



藤原歌劇団が贈る プッチーニ～愛の名曲選

今作はオペラ「蝶々夫人」「ラ・ボエーム」「トゥーランドット」などから、愛の名曲の数々を収録。プッチーニの描いた美しいメロディが詰まった1枚です。

藤原歌劇団

プッチーニ～愛の名曲選～
Bravi! VOL.3

¥1,905 +税 [TKCA-74146]

CD好評発売中!!

お問い合わせ (株)徳間ジャパンコミュニケーションズ www.tkma.co.jp/
日本オペラ振興会チケットセンター TEL. 03-6721-0874 www.jof.or.jp/

JAPAN OPERA RECORDS

TOKUMA JAPAN COMMUNICATIONS

日本オペラ振興会
公式ホームページで
随時情報更新中!

♪ ホームページ注目のコーナー ♪

最旬のアーティストや公演を
もっと知ってもっと楽しむコーナー

チャオペラ
CiaOpera!

- ★藤原歌劇団と日本オペラ協会のオペラ公演はもちろん、主催コンサートや協力公演の情報も公開!
- ★オンラインにて24時間チケットがご購入できます!
- ★お得なセット券〈プレミアムシート〉も簡単にご入会できます!
- ★JOF Blog 舞台裏レポートで、舞台のウラ側や稽古風景、育成部の授業風景などをご紹介します!
- ★オペラ鑑賞の「いろは」や知らなかったオペラのホントを大公開! などなど、お得な情報が目白押し!

今すぐ「日本オペラ振興会」で検索!!

<https://www.jof.or.jp>

藤原歌劇団 だより



藤原歌劇団総監督 折江 忠道

厳寒だった冬もようやく遠退き、梅の便りが各地からせわしなく伝えられる麗らかな頃となりましたが、歌手にとっては花粉症に悩まされる気重な季節の到来でもあります。そんな中いよいよ2018年度シリーズの開幕が間近に迫っています。昨年度は歌の技術の極みとされる傑作作品が集中し、団員諸氏にとっては創意工夫、刻苦精励あらゆる知恵と努力をもって舞台に臨んで頂く結果となり、その成果として極めて質の高い充実した公演が実現し、また大きな実りとなった事は至上の喜びであります。

ご来場頂いたお客様の興奮覚め止まぬ拍手を耳にした時、改めて深い感動と感謝の念に満たされた公演でありました。

さて本年度は昨年度とは打って変わって基本に立ち返り、オペラの根本要素の充実を計り、足元を固めたいと想っています。そこで、ロッシーニの「ラ・チエネレントラ」を皮切りに、モーツァルト作曲「ドン・ジョヴァンニ」、そしてヴェルディの「ラ・トラヴィアータ」とそれぞれ課題テーマの色濃い作品を用意しました。音楽のスタイル、アジリタ（敏捷音形）や高音の技術、レチタ

ティーヴォによる語りの技術そして演技力の充実等々明確な課題を意識しての出帆となります。そんな意味合いからも「ラ・チエネレントラ」演出家のフランチェスコ・ベッロツト氏、そして今回は「ドン・ジョヴァンニ」の指揮者として登場願うサツバティーニ氏らをお迎えし、オペラ歌手の基本的な技術と表現力向上に貢献して頂けるものと期待しています。そんな意気込みを内含しての今年度の傑作オペラ群は、必ずやお客様の感動と興奮を掻き立てる舞台となる事を確信しています。

また今後は準正団員のオーディション回数を増やし、各オペラ公演に新人を含め多くの歌手達を適材適所配置してお客様に紹介、お披露目が出来ればと思案模索しています。藤原歌劇団の新風となり且つ原動力となる歌手達の存在を、一人でも多くお客様に知って頂く事は舞台に携わる者にとってはこれも一つの大きな喜びであります。

今後の藤原歌劇団公演にどうぞご期待下さい。

日本オペラ協会 だより



日本オペラ協会総監督 郡 愛子

総監督二年目の2017年度は、皆様方のご尽力のお蔭で、とても有意義な二年間となりました。キャストینگ面でも、日本オペラ協会と藤原歌劇団との間で積極的に交流がなされ、稽古に入る時点からオープンで伸び伸びとした雰囲気にも包まれておりました。室内オペラシリーズ「ズン」「ミスター・シンデレラ」では、出演者の皆さんが熱演されるばかりでなく、各々の役を楽しんで演じられ、また日本オペラシリーズ「夕鶴」では、この古典作品の大切な核心部分が鮮やかに感じられるほど、この二つのオペラに臨んだ出演者の皆さんの特別な意気込みが伝わってまいりました。私もお客様方とともに涙いたしました。

西洋には、「いちばん愛するものは、それを失った時にわかる」という諺があるようです。「ミスター・シンデレラ」では、いちばん愛するものを失う前にそのことに気付き、幸せを守る事ができます。もう一方の「夕鶴」は、いちばん愛するものを見失ってしまった結果、取り返しのつかない悲劇を招きます。ともに、いちばん大切なものを、あらためて考えさせてくれるオペラです。

そして、2018年度に、日本オペラ協会60

周年記念公演として上演する作品は、作・台本…なかにし礼、作曲…三木稔の「静と義経」です。1993年に鎌倉芸術館開館記念委嘱作品として初演されて以来、25年振りの再演となります。権力に翻弄される静と義経の運命を背景に、義経に対する真の愛、そして永遠の愛を貫こうとする静の心情が、世の無常とともに鮮やかに映し出される、三幕もののオペラ作品です。私はこのオペラに、静の母・磯の禪師役で出演しておりました。この度の公演では、なかにし礼さんが「監修」を快く引き受けてくださっています。

このオペラ初演の際に、ジヤンタイムズの音楽評で絶賛されたことを、なかにしさんが最近あるコラムに載せておられましたので、最後にぜひご紹介させていただきます。

「日本の音楽劇で、この終幕のアリアの本当に純粋な美しさと比較できるものはかつてなく、西洋のレパートリーの中で較べられ得るアリアもごく僅か、大作といえよう。「静と義経」は、オペラのあるべき全て、すなわち、悲劇的で、華々しく、感銘的で、永遠性があり、そしてポピュラー性さえ備えた愛へのオマージュである。」

…どうぞお楽しみに。

ラ・チェネントラ

4/28(土)・4/29(日) 14:00

テアトロ・ジューリオ・ショウワ

アンジェリーナ & ドン・ラミーロ インタビュー

4/28 向野由美子 & 小堀勇介

4/29 但馬由香 & 山本康寛

今回の藤原歌劇団公演「ラ・チェネントラ」は、作品としては2005年ぶりの公演となります。前回公演に向野さんと但馬さんはティーズベ役で出演されていましたが、お二人ともその時が藤原デビュー。それから13年経ちついにアンジェリーナ役を演じられます。今回の公演はどのようにタイトルロールに臨みたいですか？

向野 2005年の「ラ・チェネントラ」の時は、ティーズベということもあり楽しく演じさせていただけました。大舞台に出るのが初めてで、イタリア語もよく解っていなかったんです。見るものやもの全てが初体験で、それはそれは必死でしたね。素晴らしい歌手を身近に感じられたのは、毛穴が開くような興奮でした。

但馬 本当にそうでしたね！(笑)

向野 ロッシーニの権威であられたアルベルト・ゼツダ先生との初共演が本格的オペラデビューという舞台から13年経って、舞台に対する責任感を学び、アンジェリーナという大役を引き受けることは今までには考えられないプレッシャーがあります。アンジェリーナという役と真摯に向き合って、公演まで作り上げていきたいと思っています。

但馬 私も2005年のティーズベ役は、とても楽しくて幸せなデビューでした。衣裳もかわいくて。アンサンブルを支える役として、純粋に楽しんでいました。大学院を修了した直後だったので、そこまでゼツダ先生の凄さを理解できていなかったんです。知らないがゆえに楽しんでたのかな？それを機に、ロッシーニについて私に合うかもしれないと思えました。今回アンジェリーナのような主役を歌わせていただくのは初めてです。今までは素晴らしい歌手の人たちの演奏をそばで見させていただけで、精神的に主役を背負うということの大変さを目の当たりにしてきました。それを今回、自分が背負うということは未だ計り知れないですが、今回同組の山本さんをはじめ、素晴らしい歌手の皆さんと共演できるのもとても楽しみです。今回藤原デビューとなる小堀さん、2015年生劇場での「ランスへの旅」にリーベンスコフ役で好演された山本さん。お二人は若手ロッシーニエールとして大活躍中ですが、ドン・ラミーロという役をどのように捉えていて、今回どのように演じたいですか？

小堀 ドン・ラミーロ役は、2016年10月にカナダのルーネンバーグという港町でロールデビューしました。街の中心部の小高い丘の上にある古い校舎の一部をお借りして、およそ3年前からゼツダ先生がアカデミーを開設され、そこでロッシーニのオペラを公演しているんです。イタリア留学期間中

に、ペーザロのアカデミー公演で歌った「ランスへの旅」のリーベンスコフを聴いたカナダの主催の方が呼んでくださいました。当時アカデミーでゼツダ先生が仰つた中で私の一番の課題は、metallico(金属的)な声になってしまふことでした。「ロッシーニの丸くて甘い音楽を歌うためには、roundな(甘い)響きを一刻も早く身につけなさい。それが今もつている表現を声楽的に助けることができる。」ドン・ラミーロは、ロッシーニ特有のフレーズング、高音が要求されており、理想の女性に恋いこがれる若い男性の音色がどんなものかを考えながら勉強しました。修了公演の時にゼツダ先生に「良くやっつた」と言っていただけで、やっとスタートラインに立てたんだと思えました。

ドン・ラミーロという役は、自分の意思がはきりしている人物だと思います。登場した冒頭で、「僕は父親が決めた結婚相手と結婚するのは嫌だ」と歌う箇所があります。それ一つをとってみても彼の人間性が良く表れていて、王族の役所であるにも関わらず敢えてロッシーニは反体制を描いたことは、当時としてはアバンギャルドだったのではないかと思えます。心の中心部には大きな愛と情熱をもって理想の女性を追い求めるのはもちろん、周りの人々の言動を俯瞰してみる立場の人物でもあるので視野の広さを持ち、楽しんで演じることができればと思っています。

山本 私はちょうど昨年の4月にイタリアでドン・ラミーロ役を歌いました。そのプロダクションで一番印象深かったのは、出演者がレクタティーヴォを普通の会話のように演じていて、それを満足にできず悔しかった思い出があります。今回はイタリア人の演出家フランチェスコ・ベッロットさんとたくさん稽古ができるので、役が生きるように演じたいと思います。「ランスへの旅」でゼツダ先生から

とても厳しいご指導をいただき、その縁もあって2016年にまたペーザロで一緒することができました。ゼツダ先生には人前でロッシーニを歌う心構えを教えてくださいたいので、それを今回も実践し「音をゼツダ先生やお客様に届けられればと思います。天国から先生の罵声が飛んでこないように頑張ります(笑)」。

一昨年お亡くなりになったマエストロ、アルベルト・ゼツダ先生との思い出がそれぞれあるようですね。

但馬 皆さんそれぞれ関わりがあると思いますが、私は二度公開レッスンを受けさせていただいたのが印象に残っています。一度目はそれこそ13年前だったと思いますが、「セビリヤの理髪師」の今の歌声は、を勉強しました。当時はまだ歌手としても若く、ゼツダ先生の仰つている言葉ひとつひとつが浸透していなかったなと今では思えます。二度目は、2016年に藤原歌劇団で「アルベルト・ゼツダ スペシャルコンサート」で来日された際に、公演翌日に二度目のレッスンを受けました。出番は最後だったので、それまでの5、6名のレッスンは演奏会翌日とは思えないほどの叱咤激励をされていて、私は袖で震えていたんです(笑)。そのレッスンを受けた時に初めて、ただアジリタのテクニクが正確なだけでは意味がなく、キャラクターの感情や魂が入っているフレーズングを作らなければいけないと徹底して言われました。それはロッシーニだけでなくどんな作品にも共通することだともわかったし、一生の財産になったと思つています。

小堀 2015年の春に藤原歌劇団とも共同プロダクションで公演した「ランスへの旅」の大阪公演の稽古中に初めてゼツダ先生に声を聞いていただきました。その時は発声的な課題などもありましたが、翌年イタリアに留学することが決まっ



左から山本康寛、但馬由香、向野由美子、小堀勇介

だったので、ペーザロのアカデミアのオーディションを受ける約束を先生と交わしました。翌年、どうせ自分のことなんて覚えてくたさらないだろう…とオーディションを受けに行ったら、ピアノストが「君だね、ゼツダが待つていた日本人のテノールは」と。会場が歌う前に舞台から「覚えてくたさつていてありがとございます！」と大声で叫んだら、「忘れるわけないだろう！一年間待つていたよ！」と応えてくたさつたんです。その時更に頑張らなきゃと思いました。

本当に愛に溢れたお方なんですね。

向野 私も何度か共演させていただいた思い出はありますが、一番心を動かされたのは2012年「フィガロの結婚」のケルビーノで二緒した時。

大声を出しがちな歌手たちに対して、ゼツダ先生は貫性をもって **pp** とレガートを言い続けてくださいました。オケ合わせの休憩時、三三五五休憩を取り始めているのに、ゼツダ先生は書き込みで真っ黒になったスコアをもう一度開かれたのです。そんな音楽に対してどこまでも誠実なマエストロの背中を見てハツとさせられ、私も休憩している場合ではない、と楽譜を開き直したことを覚えています。音楽に対して真摯であることを教えてくたさつたマエストロの背中には忘れられませんね。

山本 私はペーザロのオーディションで初めてゼツダ先生とお会いしたのですが、ロッシーニの曲と自由曲の2曲を歌うことになっていて、「連隊の娘」のあぁ、友よ、なんと楽しい日々を歌いました。歌い終わるなりマエストロが、私が立っている舞台に向かって「Perché canti Rosini? 君はなぜロッシーニを歌うんだ！」と問いかけられたのです。その時は自分がなぜロッシーニを歌っているかなんて考えたこともなく、ただ好きだからとしか答えることができなかったのです。でもその二石を投じられてから、ロッシーニを歌う意味を考えさせられるきっかけになりました。それから心から楽しくロッシーニを歌うことができています。

それから先生のプライベートなことで…ペーザロの街を颯爽と歩いているお姿は本当にかつよくて、よく見たら足元は裸足に革靴。イタリア人だな〜と思いました(笑)。

皆さんゼツダ先生との思い出は尽きませんか！
今回の演出は2016年に「ドン・パスクワレ」で素敵な舞台を作り上げてくたさつたフランチェスコ・ベツツト氏です。それぞれの組で演出への期待やアンジェリーナとラミーロの関係性を、音楽も含めどのように準備されたのですか？

小堀 まだ立ち稽古が始まっていないのですが、

チラシに使用されている舞台写真を見るとファンタジーの要素が強いのかな？と想像しています。「シンデレラ」は有名な童話ですが、実はとてもリアリティーがある登場人物やストーリーだと思つています。マニーフィコも、どこかにいるようなとても父親らしい父親として描かれているし、いじわるの姉妹もそう。主役の二人は、当時の理想的な恋愛像を表しているのではないのでしょうか。舞台装置はファンタジーだけど、そこで実際に練り広げられるストーリーはとてもリアルなものになるのではないかと期待しています。

向野 楽譜に忠実に演奏すれば、自ずとリアリティーな演技ができると思います。アンジェリーナの純粋さを表現するために、まっさらな気持ちで邪念をはらつて取り組みたいですね(笑)。

但馬 「ドン・パスクワレ」を拝見した時に、黙役の使い方が合理的だと感じました。今回も黙役が活躍することなので、良いスパイスになるのかなと。それを私も舞台で楽しめるくらい、音楽を自分のものにしたと思います。由美子さんとも密に連絡を取り合いながら作り上げていきたいです。

山本 この作品は、魔法を使ういわゆるディズニーの「シンデレラ」とは違う世界感ですが、黙役が観客へのワンクッションになつて、更にファンタジーが実際にご覧になるお客様を引き込んでくれると思います。ロッシーニの楽しみ方はいろいろありますが、技巧的な部分や躍動感をファンタジーの要素が助けてくれて、見易い舞台になるのではないのでしょうか。

とても素敵な公演になりそうですね！

最後に、今回「ラ・チェネレントラ」を楽しみにされている皆さまに一言お願いします！

向野 アンジェリーナ役はメゾソプラノならば

度はやりたいと思うロールです。この役を最後までやりきれれば、悔いなく天国へ行けるのではないかと(笑)。渾身の舞台をお届けできるように日々稽古に励んでいます。多くのお客様に楽しんでいただければ幸いです。

但馬 オペラを見たことのない方でも入りやすい作品、演出にしたいと思います。知人のお子さんも観に来てくれるので、今回は特に楽しんでもらえそう。オペラって面白いんだなと思つていただけの公演にしたいと思つていますので、それを楽しみにいらしていただきたいです。

小堀 「ラ・チェネレントラ」は日本で上演される回数は多くない作品です。今回はゼツダ先生の意思を次いだ園田さんの指揮なので、それも楽しみです。親しみやすいフレーズ、素敵なアリア、言葉遊び溢れるアンサンブルは群を抜いていて、お客様を楽しませる要素がたくさんあります。オペラを楽しませる要素がたくさんあります。オペラをオリンピックと言つても過言ではなく、トリプルアクトとか4回転ルッツとか、「決まった！」みたいな気持ちで観ていただけるとは思いません。心からロッシーニの音楽で楽しいな、また聴きたいな、と思つていただける演奏をしたいと思つていますので、是非ご来場ください！

山本 今回の「ラ・チェネレントラ」は特に、ゼツダ先生から受けたバトンをお客様に届けなければと思つています。きつと今回のマエストロ園田さんは、更に気合いが入つていらつしやるのではないかと。この作品は楽しみ方が様々あると思つています。技巧的な歌唱とテンポのいいストーリーでバランスが良く、どなたにも楽しめるオペラです。演者には音楽的にも声楽的にもハイクオリティを求められますので、私たちの限界を観に来ていただきたいです。笑顔で必死に歌つているので、それを観て笑つていただければと思います！

■藤原歌劇団公演

モーツァルト 作曲

ドン・ジョヴァンニ

インタビュー

6/30(土)・7/1(日)・3(火)

14時開演 ● 日生劇場

7/7(土)

14時開演 ● よこすか芸術劇場



ジュゼッペ・サッバティーニ [指揮]

●サッバティーニさんはこれまでにテノール歌手として世界的に活躍してこられ、藤原歌劇団にも1995年に「ファウスト」、1997年に「ラファエロ」、2003年に「ロメオとジュリエット」で素晴らしい歌声を日本の聴衆に届けてくださいました。今回は満を持して指揮者で初登場されますが、今回の藤原オペラをどのような公演にされたいと思われていますか？ また、「ドン・ジョヴァンニ」はこれまでにドン・オッターヴィオ役で出演されていると思いますが、どのようにこの作品と向き合っていましたでしょうか。

まだ今回の「ドン・ジョヴァンニ」公演の全貌は想像もつかないですが、この作品に歌手として偉大な指揮者たちと共演して、理解してきたことも活かしながら臨もうと考えています。特にムーティとの機会が多かったのですが、これまでにネーメ・ヤルヴィ、シャイー、ムーティといった著名な指揮者と共演しました。1990年8月にヤルヴィ指揮でレナート・ブルゾン、ダニエラ・テッシーたちとのスタジオCD録音に臨みました。それ以前には、1度だけドイツにて歌ったことがあります。その年、ボローニャではシーズン開幕公演がシャイー指揮の「ドン・ジョヴァンニ」で、当時の私の伴侶だったテッシーが出演

していました。スカラ座の稽古が休みの日に、私は妻に会いにボローニャへ赴いていたのですが、テノールが不調になつたということで、劇場トップから開幕公演を救える唯一の歌手だと懇願されて、なんと5時間間で覚え直して代役でドン・オッターヴィオを歌うという、自分でも信じがたい急遽の代役を果たしたこともありました。CD録音の時に以降ドン・オッターヴィオを歌つてもおらず、テッシーが出演してボローニャに居合わせただけだったにも拘わらず…。結果は大成功で、私はその後の数公演を歌いました。これが、私がこの「ドン・ジョヴァンニ」という作品と歩んだ道のりの一端です。

実は、私の夢はドン・ジョヴァンニを歌うことです。というのは、19世紀の伝統的演奏史に名を遺した4人の偉大なテノールがいて、テノールのドン・ジョヴァンニという伝統があったのです。バリトンの声種に書かれた役であることは疑う余地ないのですが、ここで言うバリトンの声とは第二に明るい音色のバリトンでした。第二に、18世紀末から19世紀初頭の頃、テノールの声につながるイメージは恐る若者でしたので、その設定からも明るめの声質でした。テノールはもともとバリテノールという声種から派生して、例えば「セビリヤの理髪師」のアルマヴィヴァ伯爵は私の声のように暗めの音色で、低域も深みと量感のある声質のために書かれていたのです。当然アジリタは求められませんが、バリテノール用のロールだったのです。マリオ・デ・カンディア (Mario De Candia 1810-1883) はドン・オッターヴィオを歌った有名なオペラ歌手の1人ですが、同時期にドン・ジョヴァンニ役も歌っていたのです。こうしたことから、まさにテノールがドン・ジョヴァンニ役を歌うといった傾向があったのです。彼はローマで亡くなり、その際に全ての蔵書をサンタチエーリア音楽院に寄贈し、私は図書館からマリオの全レチタティーヴォの資料を譲り受けました。こういったドン・ジョヴァンニにまつわる事情を知っていたので、私自身同役を歌いたいと切望するようになったのです。マリオが頻繁に歌っていたロンドンとパリの様々な図書館等で探したのですが、スコアは見つかりませんでした。恐らく何曲かは調を上げたかもしれないが、バリテノールならば楽々と歌えたでしょう。この思いは胸に秘めるのみでして、来世でももしかしら…。ともかく、この作品に臨むにあたり、これまでの経験から得た見識をもとにできることをするだけです。そして、私もこの作品を楽しみたいと思います。

●演出の岩田達宗氏と今回の公演プランについてお話しされたそうですね。岩田さんと初タッグとのことですが、どのような印象を持たれましたか？ よろしければ少しだけお二人のプランをお聞かせく

ださい。

一度だけでしたが、公演プランについてじっくりと話ししました。打ち合わせの際に抱いた印象としては、全ての面で意見や考え方の一致を感じることができました。よって、台本の言葉を大事に扱い、今回のコラボが最高のものとなるように祈っています。話し合った演出的な構想や登場人物に対する考え方や、全て妥当で評価できると感じました。今後意見の相違があれば具体的に意見交換をしていきたいと思っておりますので、大いに期待していただきます。

●最後に、今回の藤原マエストロデビューとなる「ドン・ジョヴァンニ」公演を心待ちにしているファンに三つお願いします！

今回の「ドン・ジョヴァンニ」は間違いなく、非常に興味をそそる内容の公演となるでしょうから、多くのお客さまが聴きにきてくださることを心待ちにしております。現時点で、視覚的な面での様に仕上げられていくのかは未知数ですが、指揮者である私の立場から言えるのは、円熟味を増して大きく変化を遂げた歌手たちの見事な舞台を確実にお届けできるであろうということです。一連の準備に私が深くかかわったことが演奏にしっかりと反映されてくることも、私としては非常に大切に考えています。この予めの稽古を通して、その成果に私も夢中になつて臨むことができていますし、そういった熱意は歌手陣の中にも、そしてスタッフの皆さんの内にも感じられます。よって、全体的にとっても良い雰囲気包まれていることを感じ、間違いなく望ましい流れで公演に向かっていると思います。お客様もたくさんおいで下さると信じ、それだけの価値のある公演になると思っております。



カルロ・カン
ドン・ジョヴァンニ役
(7/1)

●昨年の「ルチア」でエンリーコ役を熱演されたカルロさんですが、今回は「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールで藤原2度目の登場です。以前はイタリアで、現在も韓国で大活躍でいらっしますが、日

本のお客様のイメージはいかがですか？

先ず、この藤原との2回目の機会となる「ドン・ジョヴァンニ」に出演することを嬉しく思っています。前回の「ルチア」でもとても印象的だったのは、お客様が予め作品を理解して公演に臨んでいたということでした。これはとても大切なことです。藤原では開場中に総監督が作品について説明をされていました。今や世界的な芸術文化となったオペラも、本来私たちの文化ではありませんし、理解が容易ではないことは明らかです。しかし、予め一定の理解を深めておくことで、聴衆は作品がもたらすべき感動を受用できるようにもなるのです。この意味で、「ルチア」の際に日本の聴衆が予備知識をしっかりと持つておられることにとても驚きました。イタリアの聴衆の情熱的な盛り上がり方とは違いますが、作品への理解を深めて公演に臨むこの姿勢は素晴らしい、さらに観劇にはもともと重要なことではないでしょうか。

●「ドン・ジョヴァンニ」は初役と伺っています。今回のロールデビューをどのように取り組みたいと思われていますか？

今回この作品を学びだすまで、実は全く好きな作品ではありませんでした。モーツァルトのオペラは好きですが、「ドン・ジョヴァンニ」には魅力を感じていませんでした。というのは、高音もなければ、喋るような言葉の多さゆえに、以降の時代の作品にみられる豊かな旋律感もなく、主人公が最後には死んでしまうのですから。正直言うて関心が持てなかったのです。ところが今回のオファーを受けて、じっくりと台本に目を通し、音楽に触れていくにつれ、なんと素晴らしい作品なのかと思う様になったのです。言葉には一言として無駄がなく全てが重要な意味を持ち、それを紡ぎあげるモーツァルトの音楽も同じく…今更ですがモーツァルトは本当に天才ですよね！難しさは、既にヴェルディ等のジャンルでキャリアを積んできている今、新たなレパートリーにチャレンジするということ。異なるタイプにも挑戦



2017年藤原歌劇団公演「ルチア」エンリコー

して経験の幅を広げたいと考え、今回の出演を決めました。

●既にマエストロ・サッパティエーの音楽稽古が始まっていますが、マエストロの音楽や「ルチア」でも二緒された岩田達宗さんの演出への期待はありますでしょうか？

これまでに元歌手の指揮者とも共演した経験がありますが、マエストロ・サッパティエーは純然たる指揮者としての指導が行き届いているという印象を受けました。歌詞への傾注はもちろんですが、音色の彩りなどに関して指揮者としてのアプローチに優れていると感じました。もともとコントラバス奏者でもあったマエストロの事ですから、今回ロールデビューする私にとっても、総合的な面から重要なアドバイスをいただいています。

演出の岩田さんとは前回「ルチア」にて二緒し、素晴らしい公演に参加できました。今回は新制作ということなので楽しみます。きつと、伝統的と現代的の両面を混在させた演出を創出されるのでは？と個人的には思っています。期待度はとても大きいですが、あとは…上半身裸とかの設定でないことだけは祈ってますが(笑)。というのも、過去にイタリアで三島由紀夫原作、ヘンツェ作曲のオペラ「午後の曳航」に出演した際に、演出家が突如服を脱ぐことを要求してきました。それはたいした問題ではなかったのですが、私の上半身裸の写真が公演ポスターに掲載され、それがスゴレートの街中に貼られたのです！そうと知っていたら、予めもうちょっと体をシェイプアップしておいたのに…と思わざるを得ませんでしたね(苦笑)。

●最後に、カルロさんのドン・ジョヴァンニを心待ちにしているファンに一言お願いします！

今回の演出では、演技的側面にも力を入れて臨みたいですね。重要なこととして、役作りが挙げられるでしょう。しっかりとした解釈でどのように創り出せるかが大きなポイントになってきます。歌唱面が大切なのももちろんですが、ここで求められているのは広い音域にわたり豊かな声量で歌い上げるのではなく、色欲に溺れたドン・ジョヴァンニというキャラクターに、歌唱だけではない攻め方でありたいと考えています。過去に朗々と歌っている演奏もありますが、今やこの作品にはもつと熟成された内容の濃さが期待されていると思います。言葉や演技がより密接に絡み合った高い演劇性のある公演を目指して、マエストロと稽古を行っています。それが今回は十分に発揮される公演となることでしょう。私にとっても新たな歩といえる取り組みですので、とても興味深い公演となりそうです。是非劇場でお会いしましょう！

公演情報

●日本オペラ協会創立60周年記念公演 日本オペラシリーズNo.79

「静と義経」 なかにし礼 作・台本 / 三木 稔 作曲 / オペラ全3幕
ニュープロダクション
総監督 / 郡 愛子 監修 / なかにし礼 指揮 / 田中祐子 演出 / 馬場紀雄

2019年
3月2日(土)・3日(日) 14時
新宿文化センター大ホール

| | | | | |
|------|-------|---------|-------|-------|
| 静 | 3 / 2 | 坂口裕子 | 3 / 3 | 沢崎恵美 |
| 義経 | | 中井亮一 | | 中鉢 聡 |
| 頼朝 | | 森口賢二 | | 清水良一 |
| 弁慶 | | 泉良平 | | 豊島雄一 |
| 磯の禪師 | | 向野由美子 | | 上田由紀子 |
| 政子 | | 家田紀子 | | 東城弥恵 |
| 大姫 | | 楠野麻衣 | | 鈴木美也子 |
| 梶原景時 | | 持木弘 | | 角田和弘 |
| 和田義盛 | | 松浦 健 | | 納谷善郎 |
| 大江広元 | | 三浦克次 | | 中村 靖 |
| 佐藤忠信 | | 江原 実 | | 井出 司 |
| 伊勢三郎 | | 川久保博史 | | 下田 大典 |
| 片岡経春 | | 下瀬 太郎 | | 井上白葉 |
| 安達清経 | | 鳴海優一 | | 塚田堂琉 |
| 堀ノ藤次 | | 立花敏弘 | | 岡山 肇 |
| 藤次の妻 | | きのしたひろこ | | 二渡加津子 |

合唱…日本オペラ協会合唱団
管弦楽…東京フィルハーモニー交響楽団

2018. 9/8 (土) 10:00より発売開始!!

●藤原歌劇団公演

「ラ・トラヴィアータ」 ヴェルディ作曲 / オペラ全3幕
ニュープロダクション
総監督 / 折江忠道 指揮 / 佐藤正浩 演出 / 栗岡 淳

2019. 1/25 (金) 18:30・26 (土) 14:00・27 (日) 14:00
東京文化会館 大ホール

| | 1/25 | 1/26 | 1/27 |
|--------|-------|-------|-------|
| ヴィオレッタ | 砂川涼子 | 伊藤 晴 | 光岡曉恵 |
| アルフレード | 西村 悟 | 澤崎一了 | 中井亮一 |
| ジェルモン | 牧野正人 | 折江忠道 | (調整中) |
| フローラ | 丹呉由利子 | 高橋未来子 | 丹呉由利子 |
| ガストン | 松浦 健 | 真野郁夫 | 松浦 健 |
| ドウフォール | 東原貞彦 | 泉 良平 | 東原貞彦 |
| ドビニー | 田島達也 | 上田誠司 | 田島達也 |
| グランヴィル | 坂本伸司 | 清水良一 | 坂本伸司 |
| アンニーナ | 牧野真由美 | 鈴木美也子 | 牧野真由美 |

合唱：藤原歌劇団合唱部 管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

2018年7月頃 発売開始予定!!

藤原歌劇団
公演

ドニゼッティ作曲「ルチア」

2017.12/9・10
Bunkamuraオーチャードホール



**ベルカント・オペラの巨匠 菊池彦典による
新プリマドンナ時代の“狂乱”は圧巻**

Bunkamuraとの共催により、2011年に新制作として好評を得た岩田達宗プロダクションを再演。能舞台を思わせる現世と異界を結ぶ巨大な橋は効果的に用いられ、複雑な人間心理を浮き彫りにしました。イタリア・オペラを知り尽くしているヴェテランマエストロ、菊池彦典により生き生きとしたベルカント・オペラの世界観を牽引し、光岡暁恵、坂口裕子、西村 悟、谷 友博、韓国出身のジェイ・クォンとカルロ・カンをはじめとした最旬の歌手による競演に、客席からは名演との呼び声も多くいただきました。



●指揮 菊池彦典 ●演出 岩田達宗
●出演 ルチア：光岡暁恵／坂口裕子
エドガルド：ジェイ・クォン／西村 悟

エンリーコ：カルロ・カン／谷 友博
ライモンド：伊藤貴之／東原貞彦
アルトゥーロ：小笠原一規／曽我雄一

アリーサ：河野めぐみ／二瓶純子
ノルマンノ：小野弘晴／青柳 明
藤原歌劇団合唱部 東京フィルハーモニー交響楽団

藤原歌劇団
公演

マスネ作曲「ナヴァラの娘」／レオンカヴァッロ作曲「道化師」 新制作

2018.1/27・28 東京文化会館大ホール
2018.2/4 愛知県芸術劇場大ホール



**マスネ唯一のヴェリズモ・オペラを日本初演！
歴史の1ページを刻む、記念すべき公演**

都民芸術フェスティバル2018参加公演として、藤原歌劇団は日本初演となるマスネ唯一のヴェリズモ・オペラ「ナヴァラの娘」と、日本でも高い人気を誇るレオンカヴァッロの代表作「道化師」をダブルビルでお届けいたしました。「ナヴァラの娘」では、主役アニタ役の小林厚子と西本真子、死にゆく恋人アラキルを小山陽二郎と持木弘が、それぞれヴェリズモの真髓を熱演。「道化師」では、笛田、砂川、牧野、藤田、佐藤、須藤らがそれぞれ心情深い歌唱と演技で悲劇を助長し、現在の藤原歌劇団の実力を惜しみなく発揮。マルコ・ガンディーニの精神性に重きを置く演出は、観客の心を引き込み魅了させる舞台を創り上げました。



●指揮 柴田真郁 ●演出 マルコ・ガンディーニ
●出演 「ナヴァラの娘」
アニタ：小林厚子／西本真子
アラキル：小山陽二郎／持木 弘
レミージョ：坂本伸司／大塚雄太
ガリード：田中大揮／村田孝高
ラモン：松岡幸太
ブスタメンテ：安東玄人

「道化師」
カニオ：笛田博昭／藤田卓也
ネッダ：砂川涼子／佐藤康子
トニオ：牧野正人／須藤慎吾
ペッペ：所谷直生／澤崎一了
シルヴィオ：森口賢二／岡 昭宏

藤原歌劇団合唱部 多摩ファミリーシンガーズ
東京フィルハーモニー交響楽団(東京公演)
セントラル愛知交響楽団(愛知公演)

日本オペラ協会
公演

團伊玖磨作曲「夕鶴」

2018.2/17・18
新宿文化センター大ホール



**忘れない。全てを尽くして愛したからー。
感動の渦を巻き起こした
オペラ版“鶴のおんがえし”**

都民芸術フェスティバル2018参加公演として、日本オペラ協会は團伊玖磨の日本オペラ「夕鶴」を当会9年振りに上演いたしました。本プロダクションは2013年に兵庫県立芸術センターにて新制作され、感動を呼んだ岩田達宗演出によるもので、今回は日本オペラを初めて振る園田隆一郎の指揮により生まれ変わりました。つうを演じた佐藤美枝子と伊藤晴はともに初役で臨み、洗練された鶴の化身を見事に表現し、人間の象徴としての与ひょう役を演じた中井亮一、中鉢聡との愛と悲しみに満ちた掛け合いには涙を誘いました。



●指揮 園田隆一郎 ●演出 岩田達宗
●出演 つう：佐藤美枝子／伊藤 晴
与ひょう：中井亮一／中鉢 聡

運ず：柴山昌宣／清水良一
惣ど：泉 良平／豊島雄一

こどもの城児童合唱団 東京フィルハーモニー交響楽団

Opera

■藤原歌劇団公演

「ラ・チェネントラ」 ロッシーニ作曲
指揮：園田隆一郎
演出：フランチェスコ・ベッロツト
2018年4月28日(土)・29日(日)
14時開演
テアトロ・ジューリオ・ショウワ

■藤原歌劇団

「ドン・ジョヴァンニ」 モーツァルト作曲
指揮：ジュゼッペ・サツパティエーニ
演出：岩田達宗
2018年 6月30日(土)・
7月1日(日)・3日(火) 14時開演
日生劇場
2018年7月7日(土) 14時開演
よこすか芸術劇場

■藤原歌劇団公演

「ラ・トラヴィアータ」 ヴェルディ作曲
指揮：佐藤正浩／演出：粟國 淳
2019年1月25日(金) 18:30開演
26日(土)・27日(日) 14:00開演
東京文化会館大ホール

■日本オペラ協会公演

「静と義経」 三木 稔作曲
指揮：田中祐子／演出：馬場紀雄
2019年3月2日(土)・3日(日) 14:00開演
新宿文化センター 大ホール

Concert

■日本オペラ協会

日本歌曲連続演奏会 第68夜
2018年5月31日(木) 14:00開演
渋谷区文化総合センター大和田 伝承ホール

デビューコンサート2018 vol.1

2018年6月9日(土) 13:00/18:00開演
イノホール

Summer Concerto 2018

2018年7月8日(日) 14:00開演
ユリホール

■日本オペラ協会

日本語なら何でもアリア

2018年10月31日(水)
渋谷区文化総合センター大和田 伝承ホール

デビューコンサート2018 vol.2

2018年11月17日(土)
イノホール

新入団・会員 紹介

藤原歌劇団 正団員

▶オーディションによる



川鍋碧里(S)*



竹下裕美(S)



村松恒矢(Br)



多羅尾睦恵(P)

藤原歌劇団 正団員

▶推薦による



石岡幸恵(S)



嶋原奈美(S)



ジェイクオン(T)



大塚雄太(Br)*



小野寺光(Br)



宮本史利(Br)



龍進一郎(Br)

▶オーディションによる



水上恵理(S)*



渡辺文子(S)*



岩崎 愛(Ms)



渡辺 康(T)



大槻聡之介(Br)

藤原歌劇団 準団員

▶オーディションによる



吉田望弥(S)



鈴木 望(S)

藤原歌劇団 準団員

▶オーディションによる



神田 梓(S)*



榎田千恵子(S)



鈴木慶二郎(Br)

日本オペラ協会 準会員

▶オーディションによる



小岩井雅人(Br)

*=準団員より

Schedule & Information

平成30年度

外部出演マネージメント オペラ&コンサート

(2018年4月～9月)

(2018年3月23日現在)

【2018年】

4/1 (日)

ヘンデル〈メサイア〉全曲演奏会

出演：中井亮一

会場：しまなみ交流館

4/5 (木)・8 (日)・11 (水)・14 (土)・17 (火)・
20 (金)・22 (日)

新国立劇場公演「アイーダ」

出演：村上敏明、堀内康雄、久保田真澄

小林厚子(カヴァー)、森山京子(カヴァー)

会場：新国立劇場オペラパレス

4/7 (土)

イオンモールキャランコンサート

出演：党 静子、藤原海考、別府真也

会場：イオンモール直方

4/16 (月)

月曜フレッシュコンサート

出演：池田知穂

会場：ミュージックレストラン アルテリーベTOKYO

4/23 (月)～26 (木)

にっぽん丸クルーズ

春的那覇・奄美大島クルーズ

出演：森山京子、村上敏明

会場：クルーズ船にっぽん丸

4/30 (月)

月曜フレッシュコンサート

出演：川鍋碧里

会場：ミュージックレストラン アルテリーベTOKYO

5/4 (金)

Kitaraあ・ら・かると

3歳からのコンサートIIテノール

出演：村上敏明

会場：札幌コンサートホールKitara 小ホール

5/4 (金)・5 (土)

「多賀・光の多面体」

古代と現代を結ぶオペラティックナイト

出演：中鉢 聡

会場：東北歴史博物館水上ステージ前

5/5 (土)

近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2018

歌手たちの競演

出演：砂川涼子、折江忠道

会場：びわ湖ホール 小ホール

5/14 (月)

月曜フレッシュコンサート

出演：神田 梓、鈴木慶二郎、若尾隆太

会場：ミュージックレストラン アルテリーベTOKYO

5/16 (水)～19 (土)

上田市アウトリーチ

出演：沢崎恵美、瀧田亮子

会場：上田市市内

5/18 (金)

響ホール ワンコインコンサート 2018

出演：川越塔子

会場：北九州市立 響ホール

5/20 (日)

サンアゼリア開館25周年記念

メンデルスゾーン作曲 「讃歌」

出演：光岡暁恵

会場：和光市民文化センター サンアゼリア大ホール

5/23 (水)～26 (土)

上田市アウトリーチ

出演：中鉢 聡、瀧田亮子

会場：上田市市内

5/26 (土)

横浜みなとみらいホール開館20周年

井上道義指揮

バーンスタイン生誕100周年記念演奏会

出演：森山京子

会場：横浜みなとみらいホール 大ホール

5/27 (日)

極上の「語り」と「音楽」で味わう午後

第7回「ブッチーニ幻想のアリア」

出演：佐藤康子、笛田博昭

会場：フィリアホール

5/28 (月)

月曜フレッシュコンサート

出演：清水 実

会場：ミュージックレストラン アルテリーベTOKYO

6/4 (月)

月曜フレッシュコンサート

出演：小平菜摘、松田 健

会場：ミュージックレストラン アルテリーベTOKYO

6/7 (木)

”がんばれ！関西フィル”コンサートⅢ

出演：村上敏明、笛田博昭

会場：オリックス劇場

6/9 (土)

沢崎恵美・中鉢聡

ソプラノ&テノール リサイタル

出演：沢崎恵美、中鉢 聡、瀧田亮子

会場：上田市交流文化芸術センター

サントミューゼ 小ホール

6/11 (月)

オペラ・オードブル・コンサートvol.7

「6月のゴジ・ファン・トゥッテ」

出演：岡 昭宏

会場：日生劇場 1階 ピロティ

6/13 (水)・15 (金)・20 (水)

ニッセイ名作シリーズ2018

オペラ「魔笛」

出演：砂川涼子、伊藤貴之

会場：日生劇場

6/17 (日)

NISSAY OPERA 2018「魔笛」

出演：砂川涼子、伊藤貴之

会場：日生劇場

6/18 (月)

月曜フレッシュコンサート

出演：高杉美典、井出 司

会場：ミュージックレストラン アルテリーベTOKYO

6/21 (木)

トワイライト・クラシック・コンサート

出演：大森智子

会場：大阪・宝くじドリーム館

6/25 (月)

月曜フレッシュコンサート

出演：松下あや子

会場：ミュージックレストラン アルテリーベTOKYO

6/29 (金)

城市中学校音楽鑑賞教室

出演：笛田博昭

会場：バルテノン多摩

7/1 (日)

合唱物語「わたしの青い鳥2018」

出演：伊藤 晴

会場：北九州芸術劇場 中劇場

7/1 (日)・4 (水)・8 (日)・12 (木)・15 (日)

新国立劇場公演「トスカ」

出演：久保田真澄、小林厚子(カヴァー)

村上敏明(カヴァー)、須藤慎吾(カヴァー)

安東玄人(カヴァー)

会場：新国立劇場オペラパレス

7/4 (水)

Concert for KIDS

～0才からのクラシック～

出演：大森智子

会場：台東区生涯学習センター ミレニアムホール

7/6 (金)・9 (月)・10 (火)・11 (水)・

13 (金)・14 (土)

平成30年度

高校生のためのオペラ鑑賞教室「トスカ」

出演：小林厚子、村上敏明、須藤慎吾、谷 友博

久保田真澄、安東玄人

会場：新国立劇場オペラパレス

7/14(土)
天神でクラシック 音楽プロムナードVol.30
夏を彩る傑作選
出演：砂川涼子
会場：FFGホール

7/18(水)
ランチタイム・クラシック・コンサート
出演：菅家奈津子
会場：東京・宝くじドリーム館

7/19(木)
トワイライト・クラシック・コンサート
出演：中井亮一、藤原藍子
会場：大阪・宝くじドリーム館

7/20日(金)
青山 貴バリトンリサイタル
出演：村上敏明
会場：サントリーホール ブルーローズ

7/21(土)
びわ湖ホール・新国立劇場提携オペラ公演
「トスカ」
出演：久保田真澄、小林厚子(カバー)
村上敏明(カバー)、須藤慎吾(カバー)
安東玄人(カバー)
会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール

7/28(土)・29(日)
会津若松市戊辰150周年記念事業
オペラ「白虎」
出演：藤田卓也
会場：会津風雅堂

7/29(日)
立川オペラ愛好会
第8回ガラコンサート「名歌手たちの夢の饗宴」
出演：砂川涼子、笛田博昭、村上敏明、牧野正人
森口賢二
会場：たましんRISURUホール

8/5(日)
グランシップ 音楽の広場2018
出演：伊藤 晴
会場：グランシップ 大ホール・海

8/21(火)～23(木)
平成30年度
心に残る記念事業「中学生のためのコンサート」
出演：伊藤貴之
会場：豊田市コンサートホール

8/26(日)
オーケストラ・アンサンブル金沢
ヴェルディ「レクイエム」
出演：川越塔子、鳥木弥生、中鉢 聡、豊嶋祐壺
会場：富山県民会館

9月1日(土)・2日(日)
東京文化会館オペラBOX「トスカ」
出演：砂川涼子、村上敏明、須藤慎吾、久保田真澄
会場：東京文化会館 小ホール

9/6(木)～9(日)
東京二期会オペラ劇場
〈三部作〉
外套／修道女アンジェリカ／ジャンニ・スキッキ
出演：藤原歌劇団合唱部
会場：新国立劇場オペラパレス

9/8(土)
佐藤美枝子&村上敏明 with河原忠之
出演：佐藤美枝子、村上敏明
会場：浦安音楽ホール コンサートホール

9/17(月)
東京都交響楽団「カルミナ・ブラーナ」
出演：光岡暁恵
会場：東京芸術劇場

9/19(水)
ランチタイム・クラシック・コンサート
出演：村上敏明
会場：東京・宝くじドリーム館

9/20(木)
ニッセイ名作シリーズ2018 オペラ「魔笛」
出演：砂川涼子、伊藤貴之
会場：大分県立総合文化センター
ichikoグランシアタ

9/30(日)
開館20周年記念公演
マーラー作曲 交響曲第8番「千人の交響曲」
出演：砂川涼子、伊藤貴之
会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

受託オペラ

4/29(日)
帝国ホテル 第12回ジ・インペリアルオペラ
藤原歌劇団公演「フィガロの結婚」
出演：須藤慎吾、砂川涼子、小野寺光、山口佳子
丹呉由利子、諸田広美、安東玄人、三浦大喜
泉 良平、芝野遥香、今井伸昭(演出)
藤原藍子
会場：帝国ホテル 富士の間

受託コンサート

4/28(土)
オペラdeイオンモール
オペラ「カルメン」ハイライト
出演：未定
会場：イオンモール幕張新都心カンドゥー

5/1(火)
郡愛子と折江忠道の非常識!?コンサート
出演：郡 愛子、折江忠道、藤原藍子
会場：新百合21ホール

**お得で魅力一杯のJOF (日本オペラ振興会) 鑑賞会員
選べる! <JOFプレミアムシート> 2018/19シーズン ● 新規会員絶賛募集中!!**

藤原歌劇団・日本オペラ協会の公演が
まとめてお得にご覧いただける<JOFプレミアムシート>!
2018/19シーズンは全4演目を
最大23%OFFでご鑑賞できます!
1公演のチケット相当が無料になるかも…!?
限定特典も盛りだくさんです。
観れば観るほどお得な<JOFプレミアムシート>を
お見逃し無く!!

**会員
特典**

- ① 最高席を最優先で確保いたします
- ② 有料プログラム引換券を進呈
- ③ ゲネプロ (最終舞台稽古) ・
バックステージ見学へのご招待
- ④ 所属歌手との交流会 (有料) への参加 ※年1回予定
- ⑤ その他主催コンサートへご優待価格でのご案内 他

*どの会員も数と期間に限りがございますので、お早めにお申込みください。
詳細は、下記チケットセンターにお問い合わせください。

お問合せ：日本オペラ振興会チケットセンター
03-6721-0874 (平日10:00~18:00)

プレミアムシート特設ページで金額も簡単に確認いただけます。
今すぐチェック!

日本オペラ振興会

検索

公益財団法人日本オペラ振興会に対するご寄付と賛助会員の募集について

当振興会では団体運営及びオペラ公演維持等に要する資金を充実させるため、寄付金ならびに賛助会員募集により、篤志の方々のご支援をお願いしております。

◎**寄付金** お申し込み金額はご随意で、一時払いまたは分割払いでお支払いいただけます。

◎**賛助会員** 賛助会費年額は法人30万円以上、個人10万円以上で、ご指定の時期に毎年お支払いいただきます。

◎**税法上の優遇措置**
当振興会は公益財団法人と認定されたため、当振興会への寄付金、賛助会費に対しては、法人、個人それぞれに税法上の優遇措置が適用されます。

<詳細のお問合せまたは資料のご請求> 日本オペラ振興会 TEL 03-6721-0995 FAX 03-6721-0997

～ 育成部 募集 ～

平成31年度 オペラ歌手育成部 募集告知
オペラ専門教育機関 ～日本で最も歴史のあるオペラ団体～

【研究生】 ～プロの舞台を目指すフレッシュな人材を募集します～

1. 修業年限 1～3年 *実力にあったコースから編入可能
 2. 受験資格
 - **オペラ専門コース I**
オペラ歌手として必要な基礎を学びます。
 - **オペラ専門コース II**
歌唱表現の土台作りとオペラアンサンブルをさらに次のステップに向けてレベルアップします。
 - **オペラマスターコース**
個々の成長に合わせ、本舞台に向けたオペラアンサンブルとオペラ全曲の研修をします。
- ※入所試験時に特に優秀と認められた方には奨学金が授与されます。

【選科生】 ～楽しみながらライフワークで歌を!～

- *声楽個人レッスンとアンサンブルのグループ授業が受けられます。
1. 修業年限 1年 (次年度再受講可能)
半期コースは4月～9月と10月～3月の半年
 2. 受験資格
 - **声楽アミーチコース**
18才以上
水曜日・土曜日 / 各曜日昼コース・夜コース
 - **声楽ストゥーディオコース**
18才以上 音楽の学校等で声楽を1年勉強したものと同等の実力を有する者
水曜日 / 昼コース

要項請求 募集要項および志願票の請求は下記宛てTEL、FAXまたは当財団HPにて。育成部説明会は11月と1月に開催予定。

*詳細は、日本オペラ振興会ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先：公益財団法人日本オペラ振興会 オペラ歌手育成部

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-16-6 昭和音楽大学北校舎内
TEL (044) 969-7197 FAX (044) 953-8693 ※午前10時～午後6時 (土日・祝日休み) <https://www.jof.or.jp/training/>

サテライト教室 アミーチ藤沢クラス平成30年度春期生 募集 (5月～10月)

選科生声楽アミーチコースのプレクラスとして、藤沢で開講中。
日曜日にオペラ・アンサンブルを楽しく学べます。
◆開講日：日曜日 10:30～13:30 (3時間の授業)
◆期 間：半年 / 授業回数15回 (5～10月) + 発表会 (別途費用)
◆場 所：JR線・小田急「藤沢」駅南口より徒歩4分
*詳細はホームページ、又はオペラ歌手育成部までお問い合わせください。

**2018年4/8(日)・15(日)
春期生募集説明会開催**
藤沢教室スタジオ / 授業見学あり
※お電話でご予約受付中

**平成29年度秋期生
アンサンブルコンサートvol.5**
2018年4/22(日)
昭和音楽大学北校舎 スカラホール
★入場無料

公益財団法人 日本オペラ振興会

本部：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-3-15-317 【総務】03-6721-0995 【チケットセンター】03-6721-0874 (平日10:00～18:00)
新百合ヶ丘事務所：〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-16-6 【事業部】044-953-6411 【育成部】044-969-7197